

# 松下そういちニュース



Vol.59 2019.1.30発行 発行責任者: 松下 壮一 / 住所: さいたま市南区松本1-26-20-317

## 2期8年で実現した主な実績を紹介します

### 1. 長寿応援ポイント制度やアクティブチケットを実現！



※アクティブチケットとは.....市内に在住する75歳以上の方、もしくは長寿応援ポイント事業に登録する団体に参加してポイント交換をおこなった方や一般介護予防事業の教室に参加した65歳以上の方を対象に交付。さいたま市の美術館、博物館、市営プールなどや各種保養施設などを無料または割引で利用できるお得なチケット。

平成23年6月、初当選を果たして最初に臨んだ議会  
で一般質問に立った松下そういちが、公明党が重視する「高齢者福祉サービスの拡充」を取り上げました。

具体的には、「高齢者の健康づくりや生きがいづくりなど、介護予防につながる活動への参加をポイント化する「仮称・長寿ポイント制度」の導入を提案。さらに当時の浴場利用券を拡充して、「公衆浴場の利用のみならず、さいたま市の美術館や、宇宙劇場のプラネタリウムなどの各種施設を利用できたり、市がおこなうイベントに参加できたりするような、幅広いサービスを提供するものに拡充していくべきである」と主張しました。

これに対して清水市長からは「前向きに検討したい」との積極的な答弁がされ、翌平成24年10月から、現在の長寿応援ポイント制度およびアクティブチケットとして実施されることになったわけです。

### 2. 高層マンションガイドブックの作成・配布を実現！

松下そういちがさいたま市議会に初挑戦した平成23年の3月11日、あの東日本大震災が起こりました。その教訓から松下そういちが、防災対策についてさまざまな角度から議会でたびたび取り上げてきました。

なかでも高層マンションの防災力を高めることは、マンション化率が19%前後と高いさいたま市においては重要であり、そのための「高層マンション防災ガイドブック」を作成・配布することを強く主張してきました。これを受けてさいたま市では、平成25年1月に同ガイドブックを発行し、市内の高層マンションの自主防災組織などに配布するようになりました。南区では、さいたま市のなかでも高層マンションが最も多い地域なので、このガイドブックの活用が期待されます。



### 3. 南浦和駅のエレベーター設置がついに実現！

#### ○2年連続して議会で南浦和駅のバリアフリー化を主張

南浦和駅は、一日あたりの乗降客数がさいたま市で大宮、浦和、北浦和に次ぐ4番目に多い駅であるにもかかわらず、なかなかエレベーターが設置できませんでした。

その理由として南浦和駅は、老朽化した駅舎の耐震化を含めた抜本的な改修に合わせてバリアフリー化を進める、という考え方で検討されてきたのですが、南浦和駅は京浜東北線と武蔵野線が交わる、複雑な構造であるため、駅舎の改修と同時にエレベーターを設置することは非常に困難だったのです。

松下そいち氏は、議員に当選して最初に迎えた平成23年の6月議会で、この南浦和駅のバリアフリー化(エレベーター設置)を取り上げて質問。そのなかで松下そいち氏は、駅舎の改修とバリアフリー化を切り離し、エレベーター設置を優先すべきと主張しました。それに対して、改札内のエレベーターについて、これまでの方針を転換し、駅舎改修と切り離して23年度中に設計に着手する、という一歩前進の答弁がされました。

#### ○太田国土交通大臣(当時)やJR東日本の社長に南浦和駅のバリアフリー化などを要望

しかし、改札内のエレベーター設置が決まったとはいえ、改札外のエレベーター設置はなかなか決まらなかったため、翌年の平成24年6月、再び本会議の一般質問でこの問題を取り上げました。

その質問のなかで、「改札外のエレベーター設置主体は市なのだから、早急に進めるべき」と主張。答弁では、「市としても早期に整備を進めていきたいが、JR東日本との協議がととのわなければ整備にすすめない」とのことでした。その後、JRとの協議が少しずつ進み、設置の方向性は決まりましたが、少しでも早く実現できるように、平成26年10月、松下そいち氏は太田昭宏国土交通大臣(当時)に、南浦和駅のエレベーターの早期設置とともにホームドアの設置などを要望しました。その同じ日に、国土交通省に来ていたJR東日本の富田哲郎社長(当時)にも会って、同じ要望を伝えました。

こうした働きかけもあり、南浦和駅の改札外エレベーターの設置が加速度的に前進し、ついに平成28年3月には西口エレベーターが、平成29年3月には東口エレベーターが完成することとなりました。



平成23年6月と翌年の6月議会で連続して、一般質問で南浦和駅のバリアフリー問題を取り上げた松下は早期に整備すべきと主張



平成26年10月、太田昭宏国土交通大臣に南浦和駅のエレベーターの早期整備などを求める松下そいち



太田国土交通大臣に会ったあと、国土交通省内で富田哲郎JR東日本社長(右から2人目)にも会い、南浦和駅のエレベーター早期整備を求めた(左から2人目が松下)

## 4. 沼影市民プールの更衣室がきれいに改修されました！

沼影市民プールは、さいたま市のなかでも一番利用客の多いプールです。しかし、このプールにはこれまで大きな難点がありました。それは、更衣室がコンクリートの打ちっぴなしだったため、着替えるときに水でぬれてしまい、足元がぬるぬるして不快な思いをして着替えることを余儀なくされる、ということでした。

そういう声を市民から聞いた松下そういちが、平成23年6月に沼影市民プールの更衣室を訪れ、現地を確認。そして、早急に改善するよう要望しました。

その結果、その年の7月にはブルーとピンクのラバー素材の床となり、ぬれた体で着替えても足元がコンクリートのときのように汚れることもなく着替えられるようになりました。



男子の更衣室



女子の更衣室

## 5. 松本緑道に水道栓が設置されました！

松本緑道では、地元の有志による花と緑のボランティア会が立ち上げられ、季節ごとに花を植え替えています。これには、地元の子どもたちも数多く参加して、好きな花を植え、その場所に自分の名前を書いたメッセージカードを差し込むようになっています。

ただ、花の手入れのために必要な水の供給が大変でした。そこで、有志の代表の方が行政と相談して水道栓を設置することとなり、松下そういちも強力に後押しした結果、今年の夏、ついに水道栓が完成。以後、台車で大きなバケツを運ぶ労力は省かれることになりました。



松本緑道の花の植え替えをおこなう有志たち

## 6. 大谷場地下道の照明を強化

大谷場地下道(南浦和駅北側の地下道)は、車道と並んで歩道があり、この地下道の照明強化を要望したところ、トンネル外の壁にも明るい照明器具が設置されました。



## 7. 四谷3丁目に信号機が設置！

四谷3丁目6, 8番地付近の交差点は、以前から地元の町会やPTAなどから幾度も信号機の設置要望がありました。松下そういちも現地の通学状況を調査して浦和警察署に要望を重ねました。

当初は 適当な設置場所が見いだせなかったため、工事着手に時間がかかりましたが、平成26年2月、ついに信号機が設置されました。



# 【その他、地域の課題に対する主な取り組み】

――2期8年における地域課題への取り組みのうち、いくつかを抜粋して紹介――

## ◎見沼代用水西縁沿いの遊歩道の改善や安全対策(円正寺近辺)

### 1. 「みめまさくら橋」から「明花橋」にかけて遊歩道の水たまり対策を実施

――雨が降ると大きな水たまりができる箇所を土で埋めて改善しました(写真1、2)。



写真1



写真2

### 2. 円正寺小橋近辺の道路改善、安全対策、遊歩道の段差解消

――見沼代用水西縁に沿った道路は、比較的車の通行量が多いために道路が損傷しやすくなっているため、沿道の住宅では振動に悩まされていました。そこで、道路の改修とスピードを出しすぎないための看板の設置をおこないました(写真3)。また、円正寺小橋と遊歩道との間にあった段差も解消しました(写真4)。



写真3



写真4(この丸い部分が段差の解消箇所)

## ◎外環の歩道における自転車に対する安全対策(辻2丁目8,9,12番地近辺)

――外環の歩道を猛スピードで走る通学などの自転車利用者が多いのでなんとかしてほしい、との要望を受け、歩行者の安全を守るための看板を複数設置しました(写真5、6)。



写真5



写真6

## ◎細野遊歩道の改善と街路灯設置

### 1. 段差の解消と車止めの設置

――細野遊歩道と一般道との間に段差があったため通行しにくい、との声を受けて段差を解消するとともに、車止めを設置しました(写真7,8)



写真7



写真8

### 2. 大谷口細野公園と小さな公園の間に街路灯を設置

――細野遊歩道の下には水路があるため、通常のポールが設置できない状態でしたが、小さいサイズの街路灯がちょうどよく設置できました(写真9)。



写真9

## ◎焼き米坂の安全対策(根岸4丁目付近)

――南浦和小学校近くの焼き米坂に路面標示による安全対策を実施。



## ◎辻8丁目19、20番地付近の安全対策

――辻水深団地に近い緑道と一般道との交差点付近に路面標示による安全対策を実施しました。

